

会 派 活 動 報 告 書

平成30年5月31日

岡谷市議会議長

武 井 富 美 男 殿

会 派 名 信 政 お か や

代 表 者 名 会 長 渡 辺 太 郎

平成29年度における岡谷市議会 会派「信政おかや」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
調査研究	<p>○活動内容</p> <p>①4/27 松本駐屯基地視察「災害時における自衛隊の役割」</p> <p>②5/9 湖周事務組合「湖周地区ごみ処理施設整備事業・最終処分場の計画」</p> <p>③7/6 諏訪広域総合情報センタ視察「事業概要及び運営と施設の状況」</p> <p>④7/11 路面下空洞化調査の勉強会（ジオ・サーチ株式会社様）</p> <p>⑤7/13 財務諸表4表の勉強会（市財政課職員）</p> <p>⑥7/21 自治体業務受託事業（共立メンテナンス様）</p> <p>⑦10/12 地域緊急情報伝達システム（NPO法人維新塾中島理事長）</p> <p>⑧10/19 諏訪圏工業メッセ視察</p> <p>⑨11/13-16 長野県松本空港管理事務所「信州まつもと空港の現状と取り組み」、長崎県長崎市「長崎さるくについて」、佐賀県武雄市「図書館視察」、佐賀県多久市「小中一貫教育の取り組み、福岡県福岡市「官民協働事業（PPP）への取り組み」</p> <p>⑩2/1 岡谷蚕糸博物館視察「シルクの歴史と岡谷の産業発展の推移について」</p> <p>⑪2/24 農漁村ルネサンス体験主張大会「わが家のモズクはミネラル満点 他」</p> <p>⑫3/22-23 神奈川県横浜市 シルク博物館「シルクを通じた産業発展のルーツ」、東京都大田区「高齢者見守りネットワーク」、神奈川県海老名市「海老名市立中央図書館」</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①松本駐屯基地視察「災害時における自衛隊の役割」 災害時における役割と実状をお聞きした。通常、都道府県知事が要請からの要請に基づいて派遣されるが、大規模な震災等連絡が取れない場合は「自主派遣」や施設の近傍での災害時の「近傍派遣」などがあるとのこと。松本は山岳地の特性を生かした訓練が行われ、2014年御嶽山噴火時の過酷な状況での活動にも貢献されている。訓練の様子も見る事ができ、貴重な機会となった。</p> <p>②湖周事務組合「湖周地区ごみ処理施設整備事業・最終処分場の計画」</p>

クリーンセンター完成までの経過等についてお聞きした。現在、最終処分は民間委託を行っている。また、段階的に諏訪は焼却施設を一本化する計画が現在も残っているとのことである。

③諏訪広域総合情報センタ視察「事業概要及び運営と施設の状況」

会社概要、H29年度経営方針、国の進める情報化政策についてお聞きし、施設内の見学を行った。（国が進める情報化政策、マイナンバー制度、自治体クラウドの対応、センタの重点施策、主な事業実績など）

④路面下空洞化調査の勉強会（ジオ・サーチ株式会社様）

マイクロ波を活用してインフラの脆弱箇所を早期発見。東日本大震災の緊急調査体験から考案した革命的な「スケルカ」総点検方法について説明を受ける。調査と共に修繕のための財源確保が必要となることから、費用の確保が難しい、とのことであった。

⑤財務諸表4表の勉強会（市財政課職員）

企業会計は、バランスシートが加わることにより資産の状況を読み取りやすくなると思う。H28年度決算分より正式に公表されるが、それまでに固定資産の再評価を行い、貸借対照表に計上される。今後の活用が期待できる一方、行政側の作業が増えることもあるが、結果でしかないので、将来についての方向付けのために活用されることが望ましいと感じた。

⑥自治体業務受託事業（共立メンテナンス様）

熊本県山鹿市はトップランナー方式。平成32年度（2020年）から臨時職員にも賞与（年2.6か月分）。窓口業務の業務委託方式の提案があった。

⑦地域緊急情報伝達システム（NPO法人維新塾様）

このシステムは、上浜区の防災訓練時にも活用され成果が確認されている。

◇緊急時のネットワーク 災害（地震）発生！社会インフラの崩壊（通信・電気・水道）

- ・救助段階（数日内）：被害者の救助や救護・安否確認
- ・支援段階（数週間）：食料や支援物資の配給・被災状況の把握
- ・復興段階（数カ月）：復興計画や長期支援体制の構築

◇多くの人が携帯しているスマホ・携帯電話を活用したクラウドネットワークシステム

災害時に強いネット環境を利用でき、何処からでも情報を得ることができるとともに双方向での情報伝達ができる。

課題：端末を持っていない方は情報から隔離される、事前登録が難しい、ネット回線やネット環境への対応が不十分、端末機器を扱える人材が少ないなど。課題はあるが、端末の普及は日々広がっている。数年後は使える方が増える事から更に研究を進める必要があると感じた。

⑨-1長野県松本空港管理事務所「信州まつもと空港の現状と取り組み」

長野県職員から現状を説明いただいた。

- ・福岡線・札幌線は、搭乗率が約60～70%で推移しており変化はない
- ・国際チャーター便については平成16年～26年まで継続していたが、平成27、

28年度は実施されていない。(平成30年度は予定)

- ・国内のチャーター便は平成22～28年度まで実施され、順調に伸びている。
- ・長野県は2016年に「信州松本空港の発展、国際化に向けた取り組み方針」を策定し、国際定期便実現につなげるため台湾、中国などアジアをターゲットにチャーター便の誘致に本腰を入れるとのことであるが、全国の自治体が訪日観光客の獲得を狙っており地域間競争が激しい状況である。
- ・国際定期便が就航する地方空港は現在23空港あるが、立地の特性(標高と滑走路の長さ)から条件が厳しいという現実もあり、計器着陸装置が使えないため、航空会社からは使いにくい空港とされ、また空港建物が国際便仕様になっていないために、税関や出入国管理などの施設を新たに増築しなければならないなどの課題もある。
- ・平成29年度は冬季利用促進助成金制度を実施し、100組限定で往復¥5,000の補助を行い利用活性化を図るが、利用促進協議会加盟市町村の住民限定であることから広がりを見せていないなどの課題がある。(本市は協議会に加盟していない)

⑨-2 長崎さるくについて(長崎県長崎市)

隠れた長崎らしさを発見し、市民が主役で進める観光まちづくり。市民と行政が一緒になって作りあげた「まち歩きコース」とそのツアー。

さるく博を企画するにあたっては、長崎市に既にある地域資源を活かすことを考えた。長崎市にとって、来訪者を拒まないという市民性を持った“長崎市民”こそ、長崎観光にとっての貴重な地域資源との考え。「市民プロデューサー」を中心に42のさるくコースが作られ、さるく専門ガイドの「さるくガイド」と「さるくサポーター」が養成された。さるく博は、約1,023万人が参加し、長崎市の観光のあり方に大きな転換をもたらした。長崎市のまち歩きは「長崎さるく」として定着し、博覧会が終わった後も、新たな展開を見せている。

⑨-3 佐賀県多久市「小中一貫教育の取り組み」

多久市は、学校再編がやむを得ない中で、国の法制化に先駆けて小中一貫教育に取り組んだ。背景にある思いや考えについてお聞きした。

さまざまな検討の結果、従来の小学校・中学校をそのまま残すのではなく、3校への統廃合を伴う一体型、小中一貫校を設置する判断に至り、7つの小学校を3つある中学校の敷地にまとめた。

「自分たちが集まる大切な拠点である学校がなくなるのは困る」「本当に小中一貫教育は学力向上や目指すメリットがすぐに発現するのか」などの意見のほか、校舎の建設財源の確保と議会承認に時間がかかった。

小中一貫教育に移行後3年経過した現時点での成果は、「中1ギャップの解消」による問題行動の大幅な減少、不登校やいじめも減り、学力も伸びてきている。今後、先生方を支援するICT支援員の配置によりタブレットの活用など、先生のICTスキルをさらに高める教育やコミュニティースクールの導入などを進めていく、とのことである。

⑨-4 官民協働事業(PPP)への取り組み(福岡県福岡市)

7年目を迎えた福岡市のプラットフォームは、より実践的なものへと進化していた。年に3、4回、福岡市の関係部署のほか、設計、建設、管理運営、金融機関などの地元企業が一堂に会して、セミナーや官民の対話を実施。プラットフォームは、地元企業のスキルを高めて、PPP案件への参画を増やすのが狙い。会員組織ではないため、地元企業であれば自由に参加できる。

地元企業は全国規模の大手企業と比べても技術力では負けていないが、PPP案件のノウハウ構築が手薄になるため、プラットフォームという場を作り、対等な立場で一緒にノウハウの習得を始めた。

地元育成に力を入れている福岡市は、PPP事業への対応に積極的な地元企業も多く、他のエリアに比べて安心して組めるという面もある。よって地元企業と組まなければならないという雰囲気が醸成されており、これがプラットフォームの最も大きな成果と言えるだろう。

⑩シルクの歴史と岡谷の産業発展の推移について（岡谷蚕糸博物館）

岡谷のシルク産業の歴史を学び、これまでに岡谷市が発展してきたルーツをたどり事をテーマに、3月22日横浜のシルク博物館への視察に先駆けて、岡谷蚕糸博物館の高林館長より「シルクの歴史と岡谷の産業発展の推移」についてお聞きした。

⑫-1シルクを通じた産業発展のルーツ（神奈川県横浜市）

シルク博物館にて、製糸業で栄えた岡谷市との関係について学習した。

1階は、生糸輸出やシルクの歴史のパネルや機織り機などの製糸機器の展示ほか、実際に繭から糸をつむぐことができたり、機織り体験もできるコーナーが設置されている。2階は、多彩なデザインのシルク製民族衣装の展示「シルクのあゆみ」コーナーが設けられ、人間国宝の友禅作家、田島比呂子さんの作品も鑑賞することができる。博物館の入口には、シルクミュージアムショップがあり、シルク製品の販売を行っている。シルク博物館は、シルクの需要の促進を図るとともに、横浜や神奈川における国際観光の振興にも寄与することをめざしているとのことである。

長野県内の絹産業関連施設のある自治体や民間事業者の連携で観光振興を目的に2015年に設立された信州シルクロード連携協議会の活動に大きな期待をしているが、横浜市をはじめとする全国のシルク関連文化施設等との連携も進め、地方創生を推進してはどうかと感じた。

その他、横浜市開校記念会館を見学したが、岡谷市の旧庁舎の有効活用を早期に検討するべきと感じた。

⑫-2高齢者見守りネットワーク（東京都大田区）

みまもステーションは「大森柳元通り商店街（ウィロード山王）」と「おおた高齢者見守りネットワーク」が共同で行っているサロン事業。地域の高齢者がいつでも集える場所で様々な講座やイベントを企画（平成20年開始）。

約100名の登録サポーターに支えられ、サポーターには1回2時間以上で500円の商品券、1カ月間に1,000円を上限とする特典が与えられている。サポーター登録料として別途年間2,000円いただいているとのこと。商店街との合同

	<p>企画、見守り食堂、ミニ講座、サークル活動などが実施され、これらを支える協賛事業所として年間 2 万円の負担をする事業者約 60 団体がこれらの活動を支えているとのこと。さらに大田区との連携により 65 歳以上の「高齢者見守りきるホルダーの登録」を進め、認知症の見守りや自宅での急変時に役立っており、おおた地域包括支援センターとの連携が取られている。地域連携で「社会医療福祉法人牧田総合病院」の存在が大きく、ここから派遣される介護福祉士や看護師などの支援が運営の大きな支えと考えられる。</p> <p>⑫-3 海老名市立中央図書館（神奈川県海老名市）</p> <p>これまでの経緯と指定管理者制度導入後の新サービスについてお聞きした。指定管理者は「CCC・TRC共同事業体」、CCC／カルチャア・コンビニエンス・クラブ（株）、TRC／（株）図書館流通センター</p> <p>平成 27 年 10 月新図書館としてリニューアルオープン。蔵書数は約 31 万冊（導入前より 1 万冊の増）、席数は 428 席（約 3.5 倍）、来館者数は年間約 78,000 人（1 日平均 2,500 人：改修前の 2.4 倍）。民間のノウハウやアイデアを取り入れ、既存の図書館枠にとらわれない新たな施設としての効果が出ている。単なる図書の貸し出し場所ではなく、誰もが気軽に立ち寄れる文化教養の拠点としての位置づけが来館者の増加につながっている。</p> <p>図書館内は、cafe や書店も併設し、365 日年中無休で、9 時から 21 時までオープンしている。IC タグで自動貸し出し、自動返却手続き可能。</p> <p>指定管理になったことにより、利用者のサービス向上につながることから、公共が運営する図書館においても、サービス面での研修を深める事が必要だと感じた。岡谷図書館に将来について、空間の利活用の方法や、集まりやすい場所や環境づくり、システムなど指定管理でなくても実現できるような努力や工夫、さらなる研究が必要と感じた。</p>
<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>○活動内容</p> <p>市町村議会議員研修</p> <p>①4/20-21 住民とのコミュニケーション～対話と発信力の向上～</p> <p>②8/3-4 2025 年に向けた医療介護総合確保政策・子どもの貧困対策・認知症対策・災害と福祉の連携</p> <p>○活動の実績と効果</p> <p>①コミュニケーションの機能、言語コミュニケーションのポイント、コーチングの考え方、傾聴・質問のスキルなどを学んだ。今後、議員として住民の声を聞く場面など議会活動に活かしていきたい。</p> <p>②「2025 年に向けた医療介護総合確保政策 地域包括ケアシステムは、超高齢社会に対応するシステムであり、高齢者だけでなく幼児・学童・障がい者などの自立を図り、要介護だけでなく貧困・虐待・孤立・健康増進・生涯教育などを対象とすべきであり、住民の生き方改革であるとのこと。</p> <p>「子どもの貧困対策～子どもの貧困の現実と対策」については、貧困家庭に欠除している 4 つのポイント 1 基本インフラ（お金、寝床、知識、食事）2 体験</p>

	<p>(海、山、親、兄弟) 3 時間 (自立心を育てる) 4 トラブル対応をカバーし、子どもが健全に育つ社会・地域づくりについてお聞きした。現代の貧困の捉え方について大変に参考になった。また、貧困対策は家庭の経済状況に左右されることがなく未来に希望の持てる子供の可能性を開く教育環境・社会でなければと感じました。</p> <p>2 日目「認知症対策～団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて」では、『認知症の早期発見に力点を置くのではなく、「認知症で困っている人やその家族を早期に見つけること (困りごと早期発見)」に力点を置くべき』ことの重要性や、危機回避支援、認知症医療の限界、第 6 次介護保険事業計画など大変内容のある講義であった。</p> <p>「災害と福祉の連携～これまでの活動実践から」については、「できるところからはじめよう！全ての避難所に福祉的配慮を」がテーマで、災害関連死のリスクが高い人と支援者の関係、避難生活で、命と健康と尊厳を守るために最低限な生活環境の条件とは？等の災害現場で実際に活動してきた取り組みは大変に参考になった。</p>
広 報	<p>○活動内容 平成 30 年度予算編成に関する要望の抜粋を市民新聞に広告 フェイスブックによる活動報告</p> <p>○活動の実績と効果 市長へ平成 30 年度予算編成に関する要望書の提出</p>
広 聴	<p>○活動内容</p> <p>○活動の実績と効果</p>
要請・陳情	<p>○活動内容</p> <p>○活動の実績と効果 昨年までに医療費窓口無料化推進について要望書を提出してきたが、平成 30 年度より医療費窓口無償化がはじまることとなった。</p>
そ の 他	<p>○活動内容 総会、定例ミーティング 28 回、議案勉強会 5 回、理事者との懇談会 5 回</p> <p>○活動の実績と効果 会派の理念に沿った調査、研究、研修活動がスムーズに進められるように意見交換、意思疎通を図った。また事業計画に沿った活動を行った。</p>

***活動実績**

- ・会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。
- ・議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。